

# 序

この度は、『脊椎手術パーフェクト』発刊にあたり、編集、企画の段階から千葉大学医学部附属病院整形外科 古矢丈雄 先生、またご執筆いただきましたすべての先生方には、大変なご尽力いただき心より感謝申し上げます。本書は「第1章 頸椎」「第2章 胸椎」「第3章 腰椎」「第4章 仙椎・骨盤」「第5章 脊椎脊髄腫瘍・感染」「第6章 最新手術」という構成からなり立っております。最も重視したコンセプトは、初級者でも容易に活用でき、また脊椎手術の臨床実践で、最大限お役に立てる点です。また、脊椎手術の基本的手技の一貫性を保つために、千葉大学整形外科同門を中心に、筑波大学整形外科、北里大学整形外科の先生方にご執筆を賜りました。若手の筆者も多く、普段どのような pitfall があるのかなど、読者と共通目線での執筆となっております。

一般的な脊椎の後方除圧、前方除圧固定、後方除圧固定、インプラントの基本的使用方法、最近増加している骨粗鬆症椎体骨折に対する手術、またトピックであるナビゲーション手術、ロボット手術を盛り込んでおります。従来法だけではなく、低侵襲法手術もあり、さらにシェーマや術中写真を多用して視覚的もわかりやすくしております。一部に脊髄腫瘍・感染と、頻度は高くはありませんが、必ず遭遇する疾患に対する手術も含まれております。随所に、各筆者の point, Clinical Tips, memo, 注意点があり、普段学会では聞けないような内容も記載されております。今回各章にコラムとして、椎骨動脈損傷時の対処法、胸膜・腹膜損傷時の対処法、分節動脈損傷時の対処法、髄液漏に対する対処法などをあわせて載せてあります。通常の手術でも一定の頻度で起こりえますが、あまり遭遇はしたくありません。今一度、基本的な対処法を復習していただきたく思います。

もちろん、本書で取り上げている手術法は、脊椎手術の一部であります。まだまだ、高難易度の手術は多数存在します。しかしながら基本技術の習得は、優秀な脊椎外科医師になるのに最短の方法とっております。また、本書で紹介する技術と異なる基本的手技は多数存在します。あくまでも、一例として、ご覧いただきたく思います。脊椎手術を安全に成功させるためには、脊椎手術の技術はもちろん重要であります。前提として、どのような患者に向き合うか、適切な手術適応、合併症への対応、有事の時の患者対応はそれ以上に重要です。ぜひ、技術と並行して、医師としての高みをめざしていただき、一流の脊椎外科医師になっていただきたく思います。

最後になりますが、本書発刊にあたり羊土社の皆様方、特に、鈴木美奈子様、大家有紀子様には立案の段階から大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。

2024年1月

千葉大学大学院医学研究院 整形外科学 教授  
大鳥精司